

# カトリック六甲教会 教会報

2007  
12

No.432

## 12月の予定

		教会暦	教会行事
2	日	待降節第1主日 宣教地司祭育成の日	13:00 結婚セミナークリスマス会
3	月	聖フランシスコ・ザビエル司祭	
7	金	聖アンブロジオ司教教会博士	初金 7:00 10:00 ミサ 婦人会例会
8	土	無原罪の聖マリア(祭日)[六甲教会の守護者]	7:00 10:00 ミサ
9	日	待降節第2主日	10:15 小教区評議会 14:00 メサイヤコンサート 17:00 集会祭儀(海星病院)
13	木	聖ルチアおとめ殉教者	
14	金	聖ヨハネ(十字架の)司祭教会博士	10:00 共同回心式 16:30 神戸市民クリスマス(神戸教会)
15	土		14:30 教会学校 クリスマス会(洗礼式ミサ)
16	日	待降節第3主日	12:30 中高生会クリスマスコンサート 14:00 壮年会 黙想会(六甲学院生徒研修所)
23	日	待降節第4主日	17:00 集会祭儀(海星病院)
24	月	クリスマス・イブ	17:00 (子供と共に) 19:00 21:00 ミサ 17:00 (海星病院聖堂)ミサ
25	火	主の降誕(祭日)	7:00 10:00 ミサ
26	水	聖ステファノ殉教者	
27	木	聖ヨハネ使徒福音記者	
28	金	幼子殉教者	
29	土	主の降誕第5日	
30	日	聖家族	
31	月	主の降誕第7日	24:00 新年のミサ

## 「かいは桶」から「十字架」へ

12月に入って楽しいクリスマスが近づいておりますが、私たち信者にとって「待降節」は大切な準備の期間です。街の方では派手な飾りが出ているし、デパートではクリスマスセールたけなわです。また広告を見ると、レストランのクリスマスディナーなどのPRがよく見られます。

しかしイエズス様の誕生日はどこに出ているのでしょうか。やはり教会だけです。だから私たちは世間の動きに引っ張られることなく、待降節の間「救い主」の誕生について考えられるのです。

御父は御独り子をお遣わしになって、人類の救いを望んでいらっしやいました。

赤ん坊の誕生はどんな場合でも、周りの人たちにとって大きな喜びです。しかし同時に大きな変化が起こります。両親だけではなくて、兄弟、親戚などが生まれた子供をどういう風を守るかについて考えると思うのです。必ず子供の誕生に答えが要求されています。無関心な態度を取ることは出来ません。だから私たちは同じように、救い主の誕生をお祝いして、どういう風に応えるかを考えるはずで

す。クリスマスは毎年のお祝いですが、神の御独り子の誕生に応えるのは絶え間ない要求です。子供が生まれてくる時、この子の将来はどうなるのか、周りの人たちは考えていきます。勿論、大きな期待を持って、この子が元気で成長するよう祈ります。

私たちは生まれてきた「救い主」の生涯をもう知っています。貧しい馬小屋の中で生まれ、かいは桶の中で寝かされた姿でこの世にお生まれになりました。この世を去られる時は、十字架の木につけられ、人類の救いの為にご自分の命を捧げられました。もしイエズス様の誕生をよく理解しているならば、より寛大に与えられた救いの印に応えるように努力しているはずで

す。クリスマスは、御父が御子を与えられたように、私たちも自分の周りの人に与えるように努力しているはずで

す。クリスマスは、御父が御子を与えられたように、私たちも自分の周りの人に与えるように努力しているはずで

す。クリスマスは、御父が御子を与えられたように、私たちも自分の周りの人に与えるように努力しているはずで

す。クリスマスは、御父が御子を与えられたように、私たちも自分の周りの人に与えるように努力しているはずで

す。クリスマスは、御父が御子を与えられたように、私たちも自分の周りの人に与えるように努力しているはずで

す。クリスマスは、御父が御子を与えられたように、私たちも自分の周りの人に与えるように努力しているはずで

## 各 部 会 だ よ り

### 👩 婦人会

時の流れは早いものですね。12月を迎えました。12月2日から待降節に入ります。クリスマスの意味を心に思いながら御降誕を待ち望みましょう。

12/7 初金のミサ後、例会があります。講師に桜井神父様をお迎えし、皆様の日頃お悩みになっているであろうことやキリスト者として生きるための指針、生活と密着したお話をしてく

ださい。講演会后、昼食会もあります。多くの方のご参加をお待ちしております。

今まで確認のために婦人会行事予定へ教会行事も載せておりましたが、今月より、婦人会行事のみとなりますのでご了承下さい。

#### 【予定】

12/7(金) 初金 ミサ 10:00  
婦人会例会(初金ミサ後)  
会場: イグナチオホール

講話：『回心とゆるしの秘蹟』

講師：桜井神父

講話後、昼食会

#### 【聖堂当番】

12 / 1 (土) 午前 2 班

7 (金) 東 1・2・3

15 (土) 午前 3 班

23 (日) ミサ後 4 班

30 (日) ミサ後 5 班

#### 👉 壮年会

黙想会を開催します。多数の参加をお願いします。

日時： 12/16 (日) 14:00 ~ 17:00

場所： 六甲学院研修所

指導： コリンズ神父

テーマ：「信仰を深め、ご生誕を迎える」

黙想会后、夕食会を行います。

#### 👉 三日月会

【例会】 12月は休会です。

【三日月会喫茶】 12月は休店です。

(結婚セミナーと重なるため)

#### 👉 青年会

12 / 9 (日)、23 (日)

12:30 ~ 第5会議室

内容：聖書を読んで分ち合い等

#### 👉 教会学校

12月1日 通常クラス

12月8日 通常クラス

12月15日 クリスマス会・終業式

12月24日 17時 こどもと共に捧げる

15日のクリスマス会は来春、新一年生になるお友達もぜひご参加下さい。詳しくはリーダーが受付におたずね下さい。

#### 👉 社会活動部

都合により、連絡会開催が遅れておりますが、12月中旬または、1月上旬には“感謝の集い”を兼ねましての連絡会を開催予定しております。詳細等につきましては、後日お手紙にてお知らせさせていただきます。

#### 👉 地区会

##### 【灘3地区集会報告】

11 / 10(土)10時30分より、六甲学院の紅葉の美しい庭で地区会が開かれた。今回より、篠原台大月台、六甲台大土平、伯母野山の3地区が合同し「灘3地区」となるとはじめての集会であった。

赤松神父さまの司式による野外ミサに始まった。ミサ後、場所を東屋に移し、自己紹介後、全員で会食、懇談に移った。懇談は和やかな雰囲気の中に、信仰以外の話題も含めて、2時間近く続いた。懇談の中で、地区コーディネーターの大橋さんが裁判所の書記官の立場から見た世相と信仰について話された。懇談の終わりに、赤松神父さまご自身のギターによるすばらしい声の歌を聴いた。

近くに住む信徒たちの日常的な交流はなかなか進まないが、地区の集まりを通して、親しく話し合う機会がえられたことは、大変よかった。

この地区会をお世話した方々は、桐原さん、藤井さん、金子さん、久野さんでした。この方々のお陰で地区会は2時30分、成功裏のうちに終わった。灘3地区の世帯数は60で、出席者は22人であった。(木鎌)



## <お 知 ら せ>

### 【社会活動部より】

12 / 1 (土) 13 : 00 ~ クリスマスチャリティーコンサート (神戸中央教会 集会室)

参加費無料

チラシをご参照ください。

12 / 2 (日) 14 : 00 ~ シナピス第5回定例会 (第3・4会議室)

12 / 5 (水) 10 : 00 ~ 手芸の集い (第1・2会議室)

参加自由。お気軽にご参加下さい。

原則として第1水曜日

12 / 8 (土) 炊き出し お休みです

12 / 28 (金) 14 : 00 ~ おにぎり作り (イグナチオお台所)

須磨方面夜回り支援

初心者歓迎！男女・年齢不問！ご都合の合う日時で結構です。  
ちょっと手の空いた時間を貸してください。  
みな様のご協力、ご参加をお待ちしております。

### 第11回囲碁・将棋大会開催(11月10日)

23名が参加し、ロヨラルーム満席の盛況でした。優勝者は囲碁では田中様、将棋では武田郎様、田中さんは初めての優勝でした。

今回の一つの特徴は、囲碁・将棋共に、高校2年生の参加があったことです。

囲碁では甲斐様、将棋では小林様、甲斐様のハンディーは参加者の中で最高点、腕前は第一位で、多分六段位でしょう。今後の活躍が期待されます。

土曜日の午後一時から会を開いています。どなた様も参加できます。来訪をお待ちしております。

(山田)



### ご案内

受洗希望者を囲んで、信仰の旅路・教会生活のいろはを祈りながら学んでいるクラスです。

求道者及び、受洗後日の浅い信者の方で、ご希望の方はご参加ください。

日時: 毎週木曜日  
10:00 ~ 11:30

場所: 第5会議室  
担当: 古泉百合



## 旧約聖書勉強会（10月20日・21日）

～雨宮 慧神父によるアモス書講座～



預言者アモス 雨宮セミナーに出席して

### 1. はじめに

神戸バイブル・ハウスで六甲教会の内山姉とお知り合いになり、六甲教会での哲学講座や雨宮セミナーのお誘いを受け、時間の許す限り出席させていただくことにしています。この度も「預言者アモス」の公開セミナーに参加させていただき、心から感謝しています。

### 2. 聖書学者・雨宮神父の魅力

アモス書・講義の前に、昨年のエゼキエル書・講義にも出させていただき、雨宮先生の明快な聖書講義は以前から存じ上げていました。実は数年前に、大晦日のNHKテレビ番組で雨宮先生の旧約聖書・講義に始めて接し、聖書本文の直訳的分析を通して聖書自身に明快なメッセージを語らせるという聖書学者・雨宮先生の姿に深い感動を覚えていました。

### 3. 預言者エゼキエルの使信

「お前たちが犯したあらゆる背きを投げ捨てて、新しい心と新しい霊を造り出せ。イスラエルの家よ、どうしてお前たちは死んでよいだろうか。わたしはだれの死をも喜ばない。お前たちは立ち帰って、生きよ」と主なる神は言われる。」(エゼキエル書18章：31～32節)というエゼキエルのメッセージにも拘らず、イスラエルの民は、人間的な力では「新しい心と新しい霊を造り出す」ことが不可能であるという絶望的な状況にありました。

しかし、主なる神は、そのようなイスラエルの民を放置されずに、「わたしはお前たちに新しい心を与え、お前たちの中に新しい霊を置く。わたしはお前たちの体から石の心を取り除き、肉の心を与える。また、わたしの霊をお前たちの中に置き、わたしの掟に従って歩ませ、わたしの裁きを守り行わせる。」(エゼキエル書36章26～27節)という喜ばしい使信を与えられました。

人間に不可能なことを神は可能にしてくださるというエゼキエルのメッセージに感動しない人はいないと思われませんが、このことを雨宮講義から学ぶことができたのはこの上ない幸せでした。

### 4. 預言者アモスの使信

いつものように、雨宮先生独特のヘブル語文法に忠実な聖書本文の直訳に基づき、さらにアッシリヤとエジプトに挟まれた地理的状況と歴史的な時代背景の中で、北イスラエル王国と南ユダ王国の状況を解説しながら、預言者アモスの使信を明快に教えてくださったことが今でも眼前に思い出されるように思います。

「わたしはお前たちの祭りを憎み、退ける。祭りの献げ物の香りも喜ばない。・・・正義を洪水のように 恵みの業を大河のように 尽きることなく流れさせよ。」(アモス書5章21・・・24節)という預言者アモスの使信に明らに示されたように、神は人間が捧げる宗教的な祭儀ではなく、神と人間との正しい関係は人間関係における正しさに反映させられるべきものとして霊的な力、正義を行う力を求めておられることが解き明かされました。

## 5. 一つのご質問

ただ一点だけ私が充分理解できなかったことにつき、ご質問させていただいたように、アモス書の結語部分に相当する9章11節以下について、それまでのイスラエルに対する神の厳しい裁きの言葉に対して、神の救いの言葉が出てくるために、この部分はアモスのオリジナルではなく、後世の追加であるご解説されたように記憶しております。

しかし、例えば、“As in the Pentateuchal promises, Yahweh is the agent of the reversal: Israel does not make its own way to restoration.” (Word Biblical Commentary 31, Amos, p.399.)という理解を示す立場もあり、どちらかと言えば、私もそのような理解が聖書本文に忠実であるような気がします。

## 6. おわりに

正直に言って、私は上記の大晦日のTB番組が再放送であるとは知らずに、1時間程度で終わると思って視聴しはじめたところ、それが数時間にもおよび、途中で眠ってはいけないと思い、立ったまま視聴した結果、体力的な限界を超えて、途中で耳鳴りが始まり、いまでもその後遺症が残っています。しかし、雨宮講義の素晴らしい内容は、肉体的な耳鳴りの後遺症に優る恵みであり、また来年の9月に予定されているホセヤ書講義を今から楽しみにしております。

(門戸聖書教会会員 宮平)



## 婦人会黙想会(11/9)に参加して

精神科医師でもあり、司祭でもあるドミニコ会の井原神父さまの講話のテーマは、「信仰による自己実現」というものでした。講話は、キリスト者である女性を対象としていますから、神父さまは、まず、キリスト者である女性のあり方も、当然時代の影響を受け、そこには女性の社会参加など、すばらしいものがあることを認めます。このような女性のあり方・生き方を「実存的」セルフ・アイデンティティと言っています。

しかし、キリスト者は、実存的自己同一性に留まることなく、「信仰による自己実現」を求めていかなければならないと教えられました。神父さまは、信仰による自己実現こそ真の自己実現であると教えています。「信仰による自己実現」について、次のように説明しています。洗礼によって教会共同体の一員となったわたしたちは、聖書に示されているように、旧い人を捨て新しい人になる、自分の内のキリストと一つになる、キリストが自分の命である、すべてをキリストの御名によって行うようになるという、心の変革、つまり生き方の変革が求められる。ここにこそキリスト者の生き方の神髄があると教えておられます。

神父さまは、このような生き方を実存的な生き方ではなく、「スピリチュアル」な生き方と言っています。今日、マスメディアなどでも、スピリチュアルという用語が多く見られますが、神父さまが教えるスピリチュアルという意味は、マスメディアに散見するような意味内容ではなく、人間が神の似姿としてつくられているという、キリスト教の根源的な人間論に基づいたものです。

神の似姿としてつくられた人間は、当然、自分自身のものではありません(この自分自身を実現することが実存的自己実現です)。したがって、人間は、自分自身のものではなく、神の所有物です。今回の黙想会に参加して、わたしは、真の自己実現、真の自己開花が霊的な賜物であることを強く実感いたしました。教会共同体に属するわたしは、神の似姿であることをいつも自覚していかなければならないことを意識しました。この自覚によって、聖イグナチオの言葉を借りれば、わたし自身が神のものになっているかどうかを霊的に識別できる、と学び取りました。(木鎌)



## 壮年会「秋の日帰りバスツアー」(11/17)

鳥取カトリック教会(椿谷・善久寺殉教地)、鳥取砂丘、わらべ館を訪れて

壮年会の旅行は、一昨年(徳島教会訪問)の旅行から2年振りの開催となりました。私にとっては、1996年秋に開催され、家族全員で参加した宮津カトリック教会への旅行以来約10年振りでした。

鳥取教会は、1888年に設立されています。パリミッション、イエズス会、淳心会と運営が受け継がれ、3年前に広島教区教会になりました。1888年の設立から100年を記念して1988年にステンドグラスが製作されています。教会は板敷で靴を脱いで上がるようになっていました。東京(15年程前)に住んでいたとき通っていた荻窪教会や、建替え前の六甲教会を偲ばせる郷愁をそそる建物でした。

ステンドグラスは、祭壇に向かって左側が信者の方が専門家の指導により制作したもの、右側は専門家が制作したものでした。左側のステンドグラスは信者の方の心がこもっており、右側より力強い美しさがあるように感じました。特に左側から光が差込み、漆喰の白壁にステンドグラスが映し出され、万華鏡のように多数の鮮やかな色が輝き揺らめいている光景は素晴らしいものでした。

鳥取教会と六甲教会は深い縁で繋がれています。しかも司祭の野寄神父様は桜井神父様始め、川合壮年会会長、船井副会長等と六甲学院の同窓とのことです。

殉教の地である善久寺跡地、椿谷牢獄跡地を野寄神父様が近くまで案内して下さいました。善久寺は残っておらず、椿谷は朽ちた慰霊碑があるのみで、往時を偲ぶものは見当たりません。しかし、桐原さんが、作家の田中澄江氏が小説で描写している当地での殉教の箇所を事前にバス車中で、朗読して下さいたので印象深いものになりました。毎年6月には椿谷で殉教者のためのミサを捧げているとのことでした。



もちろん、旅行の楽しみにしていた「かに会席料理」は最高で、かにの身を取り出すのに夢中で、私はいつの間にか言葉数が少なくなっていました。



鳥取砂丘の広大な光景は感動的でした。大きな砂丘のこぶの頂点に立ち、日本海を見下ろすと、砂の崖から一気に紺碧の海に吸い込まれるような恐怖感を味わいました。

最後に立ち寄ったわらべ館は楽しい玩具がいっぱい、特に、木製のおもちゃは、童心にかえり夢中になってしまいました。

バス車中でもクイズとゲームで楽しいひと時を過ごしました。ゲームは事前に作成された文章の形容詞部分を空白にし、文章を公開せずにアトランダムに空白部分の形容詞を募り、無作為にその形容詞を文章に当てはめ、読みあげるといったものでした。抱腹絶倒の文章が完成するという仕掛けです。この文章の抜粋は、次回の「壮年会だより」に掲載される予定と聞いています。

参加人数は、安芸神父様を含め、65名、男性21名、夫婦参加者11組、女性のみ32名で、男性22名、女性43名でした。

今回は、老若男女全員が楽しめるような旅行をしてみたいなあ・・・とふと思いました。

(井川)

## バザーに参加して

私にとって、中高生として参加する最後の行事がまた一つ、終わりました。今はああ、終わってしまったか、というどこか残念な気持ちでいます。昔から細々と慌ただしく働くことは結構好きだったので、バザーは小学校の頃から楽しみにしていた行事でした。売り子をしていると、次々と売れて行くのが目に見えて分かります。それがとても楽しくて、やりがいと達成感を感じていました。

しかし今年は私用があったので、参加は午前中しかできず、その分一生懸命働いたつもりでいます。聞くと今回は売り上げがとても良かったそうで、それを聞いたときは本当に嬉しかったです。最高学年であったにも関わらず途中退場となってしまう、皆には迷惑を掛けたことと思います。また、バザー係に指名されたものの何をしていたか分からず、ぼんやりとしていた私を支え、協力してくださったり一ター方、他の中高生の皆、本当にありがとうございました。 (中高生会 井上)



## 七五三のお祝い

～ 11月11日、総勢20名の子どもたちが七五三の祝福を受けました。～

5歳と2歳6ヶ月の二人の男の子を連れて、七五三のミサに出席させていただきました。上の子供は幼稚園に通い始めて1年半。2年前の式に比べてずいぶん成長したなあと感じました。下の子供は最初から最後まで飽きばかりが気になり、訳もわからず参加しているといった感じでしたが、それでも大きな聖堂で1時間ミサを受けられたのは、すごいことだと思いました。二人の子供がいろいろな方の愛を受け、元気に着実に成長していることを改めて神様に感謝いたします。 (小田)



<全員揃って記念撮影>

## 五島・雲仙・島原キリシタン史跡訪問ツアー

快晴の恵みを受け、神戸バイブルハウス企画の五島巡礼の旅に行ってみました。今回は平山牧師を団長に約60名の参加者でした。3泊4日のこの旅で頂いたものは余りにも豊か過ぎて語りつくせませんが、思いついたままに書き記してみます。

佐世保から高速船でお世辞にも快適とはいえないサウナのような船室で...これも巡礼と心に言い聞かせ...一時間半揺られ新上五島に着き、巡礼は始まりました。巡礼先のカトリックセンターである青方教会では浜崎神父様が待ち受けてくださいました。五島には50の教会があるそうです。若松島、久賀島、福江島と島原の教会を含め15の教会を訪ねることができました。身体は大揺れ、食事は...いやいやそんなことは言っていられません。五島の先人達の決して豊かといえない生活の中で、自分たちの信仰の基、天主堂（教会の聖堂）建設に全財産と労力をかけられたお話を伺い、神様を第一とする生き方信仰の深さに心打たれました。空の青さ、紺碧の海、真っ暗な夜空に煌く星のハーモニ、都会では見られない朝日や夕日の美しさは偉大な方の存在を実感させられます。その美しさの中で、キ

リシタン弾圧の想像に絶する拷問は行われました。6坪の牢の中に小さな子供たちから老人まで190人を押し込め、改宗を迫る役人の拷問。口には言えないその牢の中の様子を思うとき、ひたすら神の存在を信じ復活の喜びを信じながら、信仰を捨てることなく殉教していかれた方々の信仰の深さに、私の心は言葉もなく震えました。奇跡的に生き残られた方は、弾圧を加えた側の方と同じ村で生きてゆかなければならない状況、またそれも不自由な身体のままですと、人を救し人を愛しなさいという聖書の言葉をどのように受けとめ生きていかれたことかと思うだけで、胸が痛くなりました。五島では「学校の勉強はせんでもよかつ。神様の教えを勉強せんばならんとよ。」と教えられるそうです。その言葉に心でうなずきながら、私の生き方は逆方向、どこで修正舵を切りなおせるかと自分に問いかけてみると、そこにはとてもみじめな自分に出会う羽目になりました。これも巡礼の恵みでしょう。一寸残念なことも伺いました。昔のカトリックの子供たちは運動会で一番力を発揮したそうです。それは朝早いうちから長い距離をかけて通学していたので足腰が強かったそうですが、今は車というものがあるので...、ということでした。隠れキリシタンは島でも辺鄙なところに住まなければならなかったのです。でも早朝6時のミサには、多くの子供たちの元気な祈り声もきくことが出来ましたし、学校行事は教会行事を優先して組み込まれていると聞きますと、



全ては神様を第一とした生き方が皆さんの心と身体に脈々と受け継がれていることを、この五島の巡礼を通して感じさせていただきました。最後は長崎の永井博士の如己堂を訪ねました。全てを人のため世のためにとご自分を顧みずキリスト者としての生き方を貫かれた姿に感動「如己愛人」（自分を愛するように人を愛しなさい）という言葉が色紙に書かれ、被爆した方々の姿、ロザリオを目にし戦争の恐ろしさ、平和の尊さを感じました。雲仙地獄谷の殉教地の島原教会で古巣神父様から信徒の絆と信仰を伝える教育の大事さを伺いました。島原の乱の原城跡などを巡るうちで、プロテスタントの方々と時間を共に悲しさ喜び希望を共有させていただいたことはとても有意義な巡礼の旅でした。「恵みのパンは我らを満たし、我らは一つに結ばれる」という聖歌のように、同じキリストにつながっている葡萄の実であると、初めて体験したプロテスタントの朝禱会の祈りの集いに参加させていただいて、あらためて心に刻み込まれました。

（藤原）



## みんなの広場

### 使い果たした姿

加齢と共にかつて接した司祭、修道者の姿をこの地上に見ることは稀になった。

その稀な姿の少なからぬものは、ただ生きてそこにあるだけの姿に見える。「神のより大いなるみ栄えのために」、「賜物」をすべて使い果たした姿である。

私利私益のために「賜物」を使い果たしても、その見える姿は異なる。

「覆水盆に還らず」、フーベルト・シュワイツェル師の口癖であった。 (ヨハネ 三好)



11月号でお知らせしましたように、六甲教会で多くの方々のために働いてくださったピンセンチオ中井 充神父が10月30日ご帰天されました。通夜ミサでは、中井神父の甥であるイエズス会神学生の中井 淳さんがご挨拶されました。ここにその抜粋を紹介し、故人を偲び、あらためて永遠の安息をお祈りしたいと思います。

「三つのキーワードで中井神父の人柄を思い起したいと思います。

#### いつも喜んでいる人

叔父はいつも喜んでいる人でした。だからユーモアを最後まで忘れませんでした。ある朝、ヘルパーさんが叔父の病室の様子を見に行くと、「生きているか、死んでいるか、血圧を測ってみてくれな

#### 忠実な僕

10月30日10時40分、中井神父は天国に帰りました。8時過ぎ、肩で息をし始め、「主よ、主よ」と声を出して唱えたということです。ロヨラハウスのヘルパーの方がロザリオを手に巻いて差し出すと、その手を握って一緒に祈っているように見えたそうです。10時過ぎ、私の父が「充兄さん、よく頑張った」と耳元で言うと、静かにうなずいたそうです。管区長、神学院の神父たち、ヘルパーなど10数人に囲まれ、数曲の聖歌を小さな声で一緒に歌っていたそうです。そして、ラテン語で祈り始め、最後にアーメンという間もなく息をひきとったそうです。忠実な僕として働いた叔父を神さまはそういう幸せな形で招きに来てくださったのだと思います。

#### 心の自由

夏に私の父が入院し、叔父と二人で見舞いに行きました。道中、「人間の器って何で決まるんでしょうね」と質問したら、「私はよく、心の自由さということを考えるよ。いかに心が自由であるかがその人を決めるんじゃないか」と。心はいつも自由に神に向いていました。

身軽に飛んで、飛んで、今は主の下に行って、僕らを見守っている中井神父さんに頼みましょう。どうか、僕らもあなたのように、ユーモアがあって、その場を和ませる優しさ・温かさがあって、いつも主に対して心の自由な神の僕になることができますように。

中井神父と出会い、人生を共有してくださった皆さん、ありがとうございました。そして、あんなに素晴らしい中井神父をわたしたちに与えてくださった神さま、どうもありがとうございました。

## ベネディクト16世回勅「神は愛」

カトリック中央協議会

時代の変化を踏まえて、その時々教えが述べられるのが回勅の意義だとすれば、この回勅にも現代の視点が色濃く出ているのは当然といえます。

まず愛について述べられます。「キリスト教の愛は『アガペー』であり、『エロース』は非キリスト教的な愛である」と教えられてきたように思います。しかし、この回勅はエロースを人間の本源的な愛として認めます。もちろん、無規律なエロースは人間を墮落させ、品位を失わせます。浄化されたエロースにはアガペーの要素が入り込み、エロース自身が成熟していきます。現代社会の中で、私たちはエロースを避けるあまり、愛から遠ざかってきた。愛の行為は「カリタス」(回勅の表題の「愛」はカリタスです)として現れます。カリタスはキリスト教の本性といっていいでしょう。

この回勅ではカリタスの実行の方法について触れています。現代社会の一つの特徴はカリタスも社会的な活動であり、組織的に行われることでしょう。このことを前提にした実際的なアドバイスがいくつか述べられています。国家機関と人道支援団体との関係、教会機関の相互強調、教会外の慈善機関との協力などです。そして組織として奉仕活動を行うスタッフにはそれなりの専門的な教育が必要であると強調しています。また、キリスト教の愛の活動は、政党やイデオロギーから独立していなければならない。そして、「改宗の強制」に用いてはならないとしています。

さて、この回勅の中で強調されていることに、教会と国家の問題があります。この問題は特に第二バチカン公会議以降、教会が一貫して強調してきたことです。「教会は政治闘争を自ら行なうことはできませんし、行なうべきではありません。」しかし、教会は政治に対して傍観者であってはなりません。教会は霊的な指導をなすべきです。そして、公正で正義の行なわれる社会の実現に向けての努力が信徒に要求されています。この点に関して、信徒の反省が求められると共に、昨今の日本の教会(司教団)の政治活動についても懸念を抱かざるをえないのですが…。大変読みやすい本です。一読をお勧めします。  
(桐原)

## Christmas Concert

2007年12月9日(日)

開場 14:00 開演 14:30

カトリック六甲教会大聖堂



### 曲 目

クリスマスキャロル      カンタータ  
モテット      メサイア(ヘンデル作曲)

入場無料    どなたでもご自由にお越し下さい

## 主任司祭の地平線

今年も12月を迎え、待降節に入りました。私たち教会は救い主のご降誕を清い心で準備し、神の子供として愛と喜びと希望をもって生きてゆく恵みを願います。待降節は同時に、典礼暦の新しい年度に入ったことであり、主日はマタイ福音書を中心とするA年、週日は第2周年になります。教会の信仰生活は、聖書という神の言葉を日々黙想しながら歩んでいることを心に留めましょう。

さて12月14日(金)にはプロテスタントの方々と一緒に、(県庁前の神戸教会で)神戸市民クリスマスをお祝いします。今年で第49回目になる歴史と伝統のある楽しい集いです。夕方は聖歌や遊びが一杯の子供の部、夜は街頭のX'masキャロルで始まり聖堂のメサイア大合唱で終わる大人の部です。我らのサンタさん・コリンズ神父のお話もあり、また六甲教会の誇る婦人部隊がケーキやホットドリンクで暖かいもてなしをさせていただきます。家族・友人連れで行かないと、損をするよ！主のご降誕を共に喜び共に祈る最適の機会ですから・・・そして、恵まれない人々への献金を捧げます。



教会報1月号の発行は、12月30日(日)です。  
編集会議は12月23日(日)です。  
記事原稿は、12月16日(日)正午までに信徒会館事務室へご提出願います。(広報部)

<http://www.rokko-catholic.jp>

カ	ト	リ	ツ	ク	六	甲	教	会					
〒657-0061	神	戸	市	灘	区	赤	松	町	3-1-21				
電	話	0	7	8	-	8	5	1	-	2	8	4	6
発	行	責	任	者	桜	井	彦	孝	神	父			
編	集	広	報	部									